

職に対する意識の調査

10413000

甲 孝司

プライバシー保護のためウェブ掲載に当たって一部改変しています

1. はじめに

今日社会には様々な仕事が存在していて景気の良い仕事や悪い仕事があふれているが、一般的に90年代から現在にかけて日本はいわゆる不景気だと言われ続けている。仕事が減り、社会には失業者が増えている中、人々の職に対する意識はどのようなものになっているのだろうか。面接法の結果をもとに考察していきたい。

2. 仮説

先程も述べたように、現在失業者が増えている日本においては求人の数が減り定まった職に就くことは難しいと言われておりフリーターの数が増えていると言われているが、そんな中でも自分のやりたい仕事を求めて自分の夢をかなえようとしている人が多いのではないかな。

3. 調査概要

- ・ 調査日時 2004年 5月25日、5月30日
- ・ 調査対象 私立A大学1回生、私立A大学2回生、私立B大学2回生、国立C大学4回生、フリーター
- ・ 調査方法 面接法

4. 質問の内容

- (1) 就職したい仕事はありますか。
- (2) どんな職に就きたいですか。
- (3) なぜその仕事に興味をもちましたか。
- (4) その仕事に就くためにしていることはありますか。
- (5) 就きたい仕事以外の職に就く事は嫌ですか。
- (6) 一度就職したらその仕事をずっと続けますか。

5. 調査結果

	私立 A 大 1 回生	私立 A 大 2 回生	私立 B 大 2 回生	国立 C 大 4 回生	フリーター
質問 (1)	ある	ある	ある	ある	特にな
質問 (2)	服飾関係	弁護士	スポーツ トレーナー	電気機械系	儲かる職
質問 (3)	服などに興 味がある から	儲かるから	一生運動に携 わっていき たいから	機械に関わ ることがし たいから	特にな
質問 (4)	特にな	法科大学院に 入るために 勉強	スポーツジム でバイト	就職活動中	特にな
質問 (5)	できればや りたい仕事 がいい	興味がある職 なら構わない	興味がある職 なら構わない	ある程度興 味がもてる ものならま だ良い	別に嫌では ない
質問 (6)	続けたい	続けたい	続けたい	わからない	続けない

以上の表からフリーターを除く他の 4 人の就職意識の高さが見て取れる。1 回生のころは漠然と自分の興味のある仕事のことを考え、まだその職に対する行動を起こしてはいないようだが、2 回生になると自分の夢に対する行動を起こすようになり、本格的に就職に対する意識が芽生えるようだ。就職活動中の 4 回生は言うまでもなく自分のやりたい仕事に就くべく毎日のように就職活動に精をだしているようだ。他に興味深かった点は、質問 (5) における自分の理想以外の仕事に対する興味である。本格的に就職活動を行っている 4 回生は就職の現実を目の当たりにしているからか、自分の理想以外にも目を向けているのにたいして、1 回生は理想以外にも目を向けているものの、自分の理想の仕事に重きをおいているようだ。2 回生になると少し自分の理想以外にも目を向けるようになり意識の変化が伺える。

6. 結果の考察

調査結果の内容からは就職に対する意識の高さがみて取れたが、まだどこか漠然としている感じをうけた。おそらくやりたい職種というのは頭の中にあるのだろうが、それを実現するための行動がはっきりとわからずに漠然としているからではないのかと考えた。

就職の時期に近づくにつれて理想の仕事以外の仕事に興味を持ちだすのは、就職の情報を得るうちに現実的な考えを持つことによって生まれる妥協の意識が深く関係しているのだと思う。しかしその妥協の意識こそが就職においては重要に思えてならない。妥協できない人間が増えている結果、フリーターが社会にあふれて一つの社会現象を引き起こしているのだと思う。

調査結果の中で調査対象のフリーターの就職に対する意識の低さが見て取れるが、社会には自分の夢を実現させるために、フリーターをしている人や他の理由でフリーターをしている人もいるはずなので一概にフリーター＝就職意識が低いと定義するには調査対象の数が少なすぎたので、いつかフリーターのみを対象にした調査を行って、就職に対する意識を明らかにしていきたいと思う。

7. 終わりに

今回複数の人に面接を行おうと思い色々な人を対象としてみたが、対象者の条件がバラバラになってしまい、比較するのに少し無理が生じてしまった気がする。次回はその点を考慮に入れて、より正確に比較ができるように調査対象者の条件を明確にしてから調査に臨みたいと思う。できれば次回はもう少し面接に時間をかけてラポールの形成をしっかりとした上で、もっと詳しいデータを集めていきたい。